



東海ノア  
(東海 NOAH)

# 東海ノア通信

[原子力事業所安全協力協定]

第4号 (平成13年7月発行)

東海ノア協定事務局  
(日本原子力研究所・東海研究所内)

Telephone : 029-282-5801  
E-mail : t-noah@popsvr.  
tokai.jaeri.go.jp

東海ノア通信 第4号をお届けします。

東海ノアの活動も新年度を迎え、「平成13年度年間活動基本計画」に基づく活動を展開中です。前年度の活動実績を踏まえ、掘り下げた活動の展開と定着化に努めて参ります。

また、第4号では、東海ノア協定加盟事業所からの紹介コーナーを設けました。

## トピックス

### ☆活動状況

- ・第4回安全協力委員会の開催
- ・活動推進幹事会の活動状況
- ・自主保安に関する点検協力活動
- ・安全教育に関する協力活動
- ・情報交換に関する協力活動
- ・緊急時に対応するための活動

### ☆加盟事業所からの紹介

### ☆東海ノア協定役員の紹介

### ☆今後の活動予定

東海NOAH：東海村（東海）、那珂町（N）、大洗町（O）、旭村（A）、ひたちなか市（H）

## 活動状況

### ○第4回 安全協力委員会の開催（平成13年3月29日）

- 主な議題：(1)平成12年度活動状況について  
(2)平成13年度年間活動基本計画について



### ○活動推進幹事会の活動状況

#### ①第11回 活動推進幹事会(平成13年4月27日)

- 主な議題：(1) 平成13年度自主保安点検協力活動について  
(2) 平成13年度総合訓練の計画について  
(3) 通報・招集訓練の実施について

#### ②第12回 活動推進幹事会(平成13年7月12日)

- 主な議題：(1) 原子力緊急時支援・研修センターの現状紹介  
(2) 平成13年度総合訓練実施計画について  
(3) 自主保安点検協力活動の実施報告について

### ○自主保安に関する点検協力活動

協定に加盟している事業所を対象に原子炉主任技術者、放射線取扱主任者、核燃料取扱主任者、衛生管理者、防火管理者等の実務経験のある専門家を派遣し、対象となった事業所の安全管理について様々な観点から確認、意見交換等を通じてその事業所の安全管理の向上に役立てるための活動を行っております。

次ページに自主保安点検協力活動の概況をご紹介いたします。

## 第4回 自主保安点検協力活動

- ・実施日時 平成13年7月4日（水）10時00分～16時50分
- ・事業所名 東京大学大学院工学系研究科附属原子力工学研究施設
- ・点検協力者 3名
  - ① 原子炉主任技術者（所属：日本原子力研究所）
  - ② 放射線取扱主任者（所属：核燃料サイクル開発機構）
  - ③ 防火管理者（所属：原子燃料工業株式会社）

\*他 事務局2名
- ・項目 1) 安全管理の基本方針  
2) 施設内及び他社で発生した事故・トラブルの水平展開  
3) 放射線管理、廃棄物管理  
4) 運転、保守、作業管理  
5) 緊急時における対応体制、訓練  
6) 教育訓練  
7) 規定、規則の整備  
8) 緊急事態対応策の検討  
9) 現場巡視
- ・点検協力活動の様子



事業所の対応者（右側）と意見交換を行う点検協力者（左側）



高速中性子源炉「弥生」の制御室を巡回する点検協力者（施設は定期検査期間中）

## ○安全教育に関する協力活動

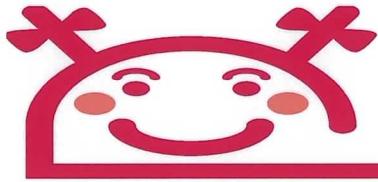
- ・加盟事業所で企画主催する講演会・公開講座等への参画
  - ① 講演会「米国ロスアラモス研究所におけるプルトニウム吸入被ばく事故報告会」  
(平成 13 年 3 月 27 日、サイクル機構東海主催)
  - ② 公開講座「エネルギーと地球環境」  
(平成 13 年 5 月 10 日、原電東海主催)
  - ③ 講演会「東海発電所から教えられたもの」  
(平成 13 年 6 月 5 日、原電東海主催)
  - ④ 公開講座「放射線ホルミシス研究の現状」  
(平成 13 年 6 月 13 日、原電東海主催)
  - ⑤ 講演会「安全を考える」  
(平成 13 年 7 月 4 日、サイクル機構東海主催)
- ・各事業所の安全教育に関する調査の実施

## ○情報交換に関する協力活動

- ・通報連絡訓練の実施について
- ・加盟事業所で主催する総合防災訓練等への観察
  - ① 原研大洗研究所 主催 (平成 13 年 6 月 28 日、4 事業所 4 名 参加)
  - ② 原研東海研究所 主催 (平成 13 年 7 月 11 日、3 事業所 3 名 参加)

## ○緊急時に対応するための活動

通報連絡系統の機能確認や「緊急事態協力活動本部」の円滑な運営及び協力活動本部員の技量の維持・向上を図るため、総合訓練、通報訓練、招集訓練等を実施しております。 次ページにご紹介します。



## 緊急時に対応するための活動

### ○ 総合訓練の計画

平成 13 年度 年間活動基本計画に基づき、7 月 30 日（月）に東海ノア独自の総合訓練を計画しております。

6 月 29 日（金）に、緊急事態協力活動本部の班長・班長代理を対象とした打合せを、原研東海研究所の防護活動本部室で行いました。



### ○ 通報・招集訓練の実施

平成 13 年 5 月 17 日（木）に日揮株式会社 技術研究所を発災事業所に想定した通報・招集訓練を行いました。

次ページに実施状況をご紹介します。

### ○ 茨城県主導の通報連絡訓練

平成 13 年 6 月から茨城県主導の「原子力施設における事故・故障発生時の通報連絡訓練」が行われております。 東海ノアでは、昨年に引き続き、この訓練に参加・協力するとともに、東海ノア協定に基づく通報連絡系統の機能の維持向上に努めております。

# 通報・招集訓練

原研東海研究所に協力活動本部員 95名が集結

東海ノア協定に基づく活動のひとつとして、緊急事態を想定した訓練があります。

さる5月17日（木）に、東海ノア協定加盟事業所である日揮株式会社 技術研究所（大洗町所在）の第2研究棟で火災が発生したとの想定で通報・招集訓練を行いました。

東海ノア協定に基づき、発災事業所からの協力要請を受信後、発災事業所を除く20の協定加盟事業所への通報に要した時間は約23分間でした。また、協力活動本部員の集結に要した時間は、協力要請を受信してから約65分間でした。

この訓練の一環として、原研東海研究所の防護活動本部室の機能説明会や情報遠隔収集ロボットの視察を行いました。



集結する本部員



本部員に訓示する前田本部長



防護活動本部室の機能説明会



情報遠隔収集ロボットの視察

また活動のねらいを「職場の改善、人材育成を通して業績向上を補完する」としました。すなわち、チームの自主的（自らが主役）な活動とし、ライン管理職は支援者として、「ひまわり活動」を支援・育成する立場に変更いたしました。

具体的な活動として、災害発生時の行動・防災器具の再点検、廃棄物の減量化、加熱反応時の安全対策等々、各自が多数のアイデアを提案し、活発なチーム討議により革新的な対策を練上げ、それを実施して企業活動に反映した実績があります。これらのチーム活動・全体発表会を通して、従業員の防災意識・資質向上に大きく寄与する成果が得られました。

これまでの3年間の自主的活動を振り返りますと、「明るく楽しい活動を目指す」体質に生まれ変わり、人材育成面ではコミュニケーションの推進が重んじられるようになりました。

今後は、この「ひまわり活動」を、従業員一人ひとりが達成感を共有し、「感動を覚える活動、自己成長の喜びを味わえる場」として21世紀、わが社の企业文化に根づくことを願っています。

以上



## 東海ノア協定役員の紹介

平成 13 年 7 月 1 日現在

### ○ 安全協力委員会

委員長　日本原子力研究所 東海研究所　所長　前田 充  
副委員長　核燃料サイクル開発機構 東海事業所　所長　岸本 洋一郎  
副委員長　日本原子力発電株式会社 東海発電所・東海第二発電所  
　　　　　　　　　　　　　　　　　所長　奥野 耕三

### ○ 緊急事態協力活動本部

本部長　日本原子力研究所 東海研究所　所長　前田 充  
(本部長　核燃料サイクル開発機構 東海事業所　所長　岸本 洋一郎)  
副本部長　日本原子力研究所 東海研究所　副所長　竹下 功  
副本部長　核燃料サイクル開発機構 東海事業所　所長代理　山内 孝道  
副本部長　日本原子力発電株式会社 東海発電所・東海第二発電所  
　　　　　　　　　　　　　　　副所長　山本 謙二

( ) 内は緊急事態協力活動本部が核燃料サイクル開発機構東海事業所に設置された場合

### ○ 活動推進幹事会

幹事長　日本原子力研究所 東海研究所　保安管理室長　山原 武  
副幹事長　核燃料サイクル開発機構 東海事業所　保安管理部長　金盛 正至  
副幹事長　日本原子力発電株式会社 東海発電所・東海第二発電所  
　　　　　　　　　　　　　　　副所長　植草 菊雄

## ◎ 今後の活動予定

- ・総合訓練・・・・・・・・・・・・・・・・ 7月30日（月）
- ・NSネット「第3回管理者セミナー」（東海ノア協賛）・・8月23日（木）
- ・安全協力委員会・・・・・・・・・・・・ 9月
- ・活動推進幹事会・・・・・・・・・・・・ 9月
- ・自主保安に係る点検協力活動・・・・・・・ 10月
- ・安全教育研修・・・・・・・・・・・・ 10月

## ☆ 編集後記

東海ノア通信 第4号では「加盟事業所からの紹介」を新たに掲載しました。今後も皆様に興味をもってご覧いただけるように趣向を凝らして参ります。

東海ノア通信の目的である「情報の交換、共有化」という観点から、有益な情報を待ちしております。

東海ノアに関するご要望、ご質問等についても事務局までお寄せ下さい。

(東海ノア協定事務局)